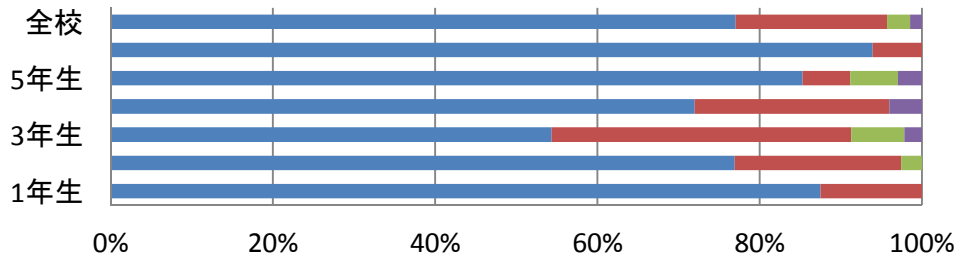
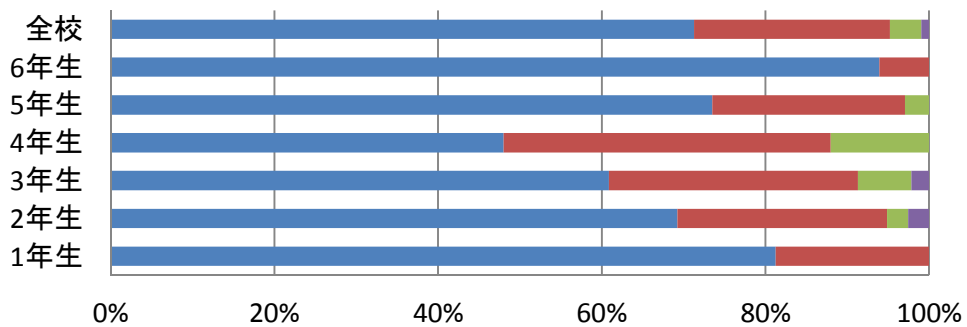


1. 学校は楽しい(2学期)



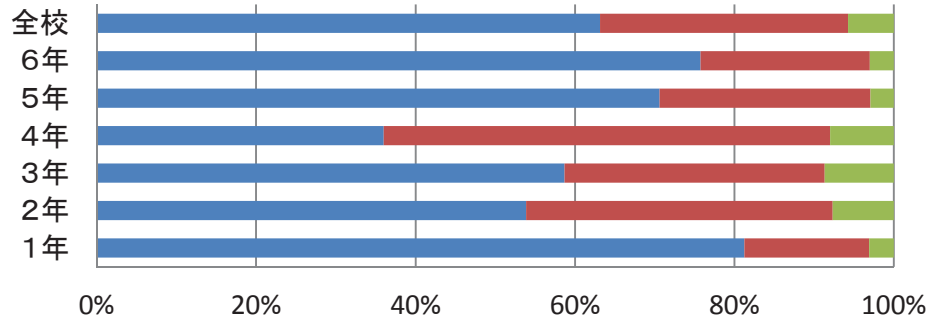
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 全校 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ■ はい | 28 | 30 | 25 | 18 | 29 | 31 | 161 |
| ■ すこしはい | 4 | 8 | 17 | 6 | 2 | 2 | 39 |
| ■ すこしいいえ | 0 | 1 | 3 | 0 | 2 | 0 | 6 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 |

2. 学習がわかる(2学期)



| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 全校 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ■ はい | 26 | 27 | 28 | 12 | 25 | 31 | 149 |
| ■ すこしはい | 6 | 10 | 14 | 10 | 8 | 2 | 50 |
| ■ すこしいいえ | 0 | 1 | 3 | 3 | 1 | 0 | 8 |
| ■ いいえ | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |

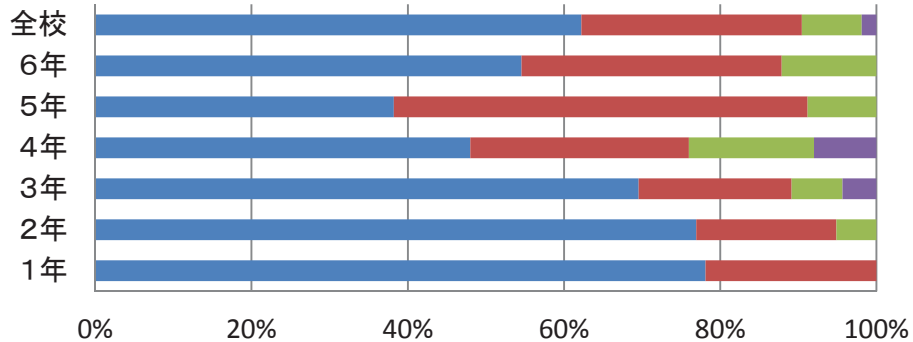
3. 先生の話や友だちの発表を聞いて、学習に参加する(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 26 | 21 | 27 | 9 | 24 | 25 | 132 |
| ■ すこし はい | 5 | 15 | 15 | 14 | 9 | 7 | 65 |
| ■ すこし いいえ | 1 | 3 | 4 | 2 | 1 | 1 | 12 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

「はい」「すこしはい」が197名おり、1学期に比べ、多くの児童が友達の発表を聞いて、学習に参加していることがわかる。「聞く」ことや、聞く姿勢ができたことを「ほめて、価値付けをしていく」ことの大切さ(特に話す人の方を向いて聞く)を全職員共通理解のもと、各学級、行事の中で1学期同様、指導を継続的に行ってきた成果であると考え。しかし、12名の児童は、「すこしいえ」と答えている。1学期よりは数値は少し高くなったものの、今後も「雷山小で大切にしたい学習規律」を基盤として、学習意欲の喚起を図りながら、学習活動を行っていく必要があると考える。

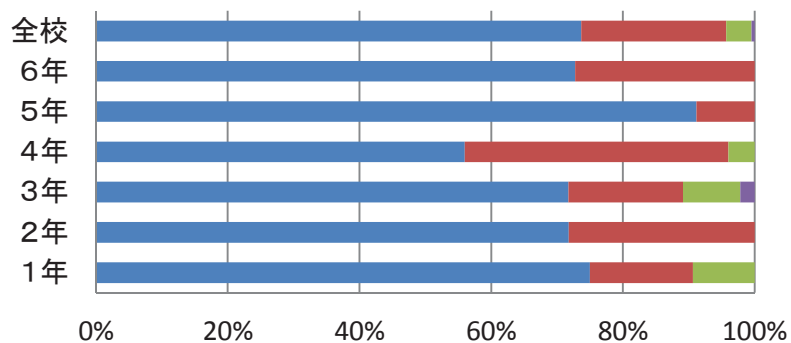
4. 考えたこと・思ったことを発表したり書いたりする(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 25 | 30 | 32 | 12 | 13 | 18 | 130 |
| ■ すこし はい | 7 | 7 | 9 | 7 | 18 | 11 | 59 |
| ■ すこし いいえ | 0 | 2 | 3 | 4 | 3 | 4 | 16 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 |

「はい」「すこしはい」が189名おり、1学期に比べると、多くの児童が考えたこと・思ったことを発表したり、書いたりすることができている。校内研究において、各教師が授業を公開し、協議会を通して、授業づくりに、深まりと広がりが出てきた成果であると考え。また、全員発表の取組や、発表する前の自分の考えをつくる活動、ペア交流やグループ交流などの活動をしっかり取ることで、発表への意欲と自信につなげることができたと考え。「すこしいえ」「いいえ」と答えている児童は20名おり、1学期よりも数値は低くなっている。また、発表することや書くことへの苦手意識がある。特に今後は、「考える」→「書く」活動の指導を大切にしていきたいと考えられる。

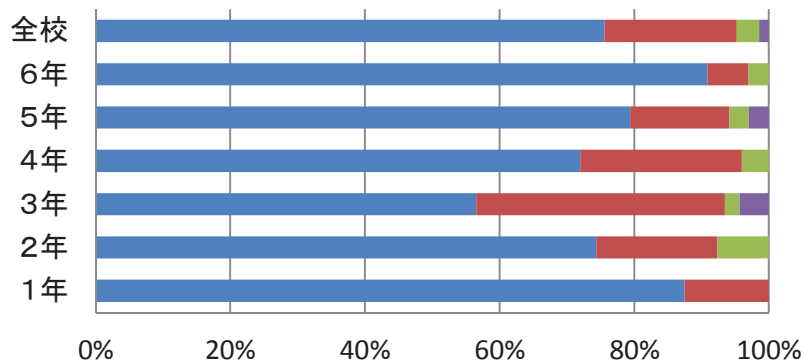
5. 気持ちのよいあいさつをする(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 24 | 28 | 33 | 14 | 31 | 24 | 154 |
| ■ すこし はい | 5 | 11 | 8 | 10 | 3 | 9 | 46 |
| ■ すこし いいえ | 3 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 8 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |

「はい」「すこしはい」が200名おり、多くの児童が気持ちのよいあいさつをすることができている。明るく、大きく元気な声で挨拶すること、されることのよさを感じている児童が多い。あいさつ運動の取組も大きな成果であると考えている。しかし、「すこしいいえ」「いいえ」と答えている児童は9名いる。友達どうしてあいさつをし合うことはもちろん、教師から進んであいさつを投げかけていくこと、そして、挨拶が返ってきたら、しっかりとほめることを繰り返しながら、気持ちのよいあいさつのよさを感じさせていくようにする。

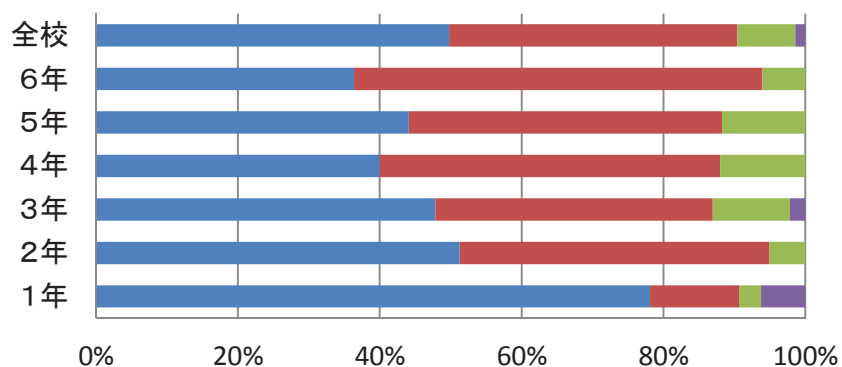
6. 友だちと協力して活動、仲良く遊ぶ(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 28 | 29 | 26 | 18 | 27 | 30 | 158 |
| ■ すこし はい | 4 | 7 | 17 | 6 | 5 | 2 | 41 |
| ■ すこし いいえ | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 3 |

「はい」「すこしはい」が199名おり、1学期に比べ、多くの児童が、友達と協力して活動したり、仲良く遊んだりすることができている。学校行事、学級での取組において、協力し合える活動、みんなで仲良く遊ぶための活動の場を多く設定していった成果だと考えている。しかし、「すこしいいえ」「いいえ」と答えている児童も10名いる。トラブルがあってもお互いが納得する話し合いの場(「どおなつ」)がこれからも必要であると考えている。

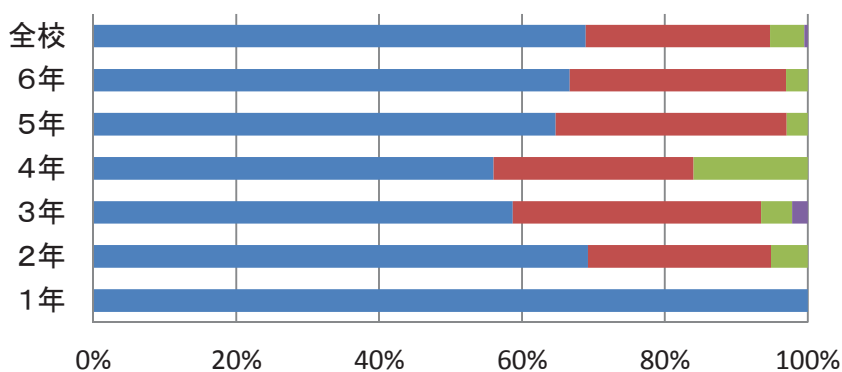
7. 良いことと悪いことを判断して行動する(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 25 | 20 | 22 | 10 | 15 | 12 | 104 |
| ■ すこし はい | 4 | 17 | 18 | 12 | 15 | 19 | 85 |
| ■ すこし いいえ | 1 | 2 | 5 | 3 | 4 | 2 | 17 |
| ■ いいえ | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |

「はい」「すこしはい」が189名おり、1学期に比べ、多くの児童が良いことと悪いことを判断して行動することができていると答えている。各担任の先生方、担外の先生方も含めて、全職員での指導と、よい行動については価値付けを行っている成果であると言える。「すこしいいえ」「いいえ」と答えている児童は20名いる。1学期と数値に変化がないことから、さらに児童の言動や行動を観察しながら、見逃さない指導(考えさせる・教える・見届けて頑張ったことを価値づける)を全職員が、心がけていく必要があると考える。

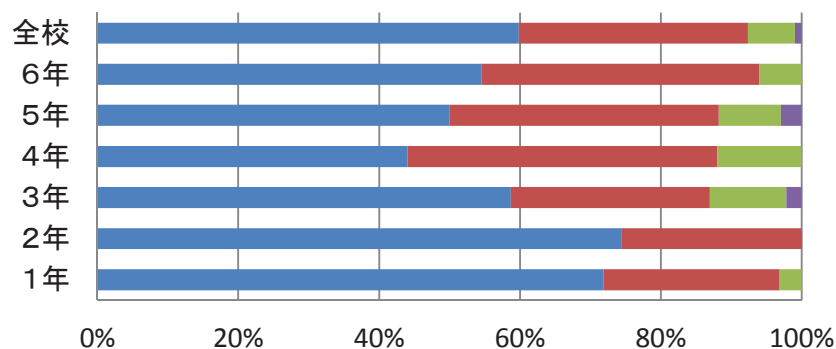
8. やるべきことを最後までやり通す(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 32 | 27 | 27 | 14 | 22 | 22 | 144 |
| ■ すこし はい | 0 | 10 | 16 | 7 | 11 | 10 | 54 |
| ■ すこし いいえ | 0 | 2 | 2 | 4 | 1 | 1 | 10 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |

「はい」「すこしはい」が198名おり、1学期に比べ、多くの児童がやるべきことを最後までやり通すことができている。1学期同様、粘り強い気持ちを、学級での取組、行事等を通して育てていった成果であると言える。しかし、11名の児童は「すこしいいえ」「いいえ」と答えている。教師が最後まで活動を支援し、見届けながら、頑張った児童の姿を価値づけることや、友達どうしで、声を掛け合い、助け合いながら最後まで一緒に取り組ませる活動を意図的に設定していくことが考えられる。(振り返りの活動も重視していく必要がある。)

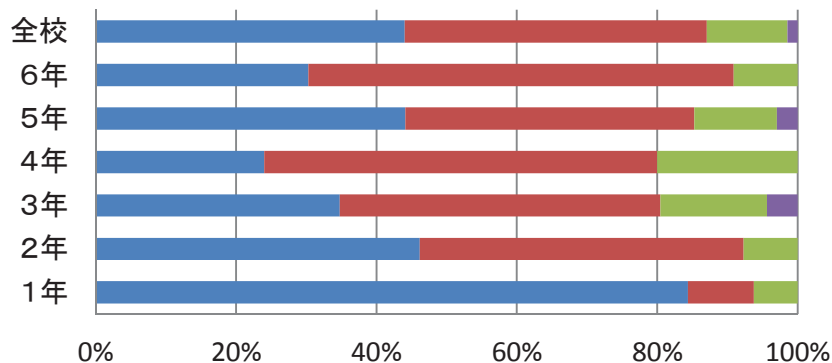
9. だまって掃除をする(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 23 | 29 | 27 | 11 | 17 | 18 | 125 |
| ■ すこし はい | 8 | 10 | 13 | 11 | 13 | 13 | 68 |
| ■ すこし いいえ | 1 | 0 | 5 | 3 | 3 | 2 | 14 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |

「はい」「すこしはい」が193名おり、1学期に比べると、どの掃除区域においても、だまって掃除をしている児童の姿が、多く見られるようになってきた。全職員が、だまって掃除することを意識した指導を、継続的に行ってきたことや、推進部が中心となって、縦割り掃除の推進等を行ってきた成果であると考え。しかし、「すこしいいえ」「いいえ」と答えた児童は16名と多い。教師がいないところでは、まだまだ自分たちで気をつけて、だまって掃除ができていない。今後も、学校全体の取組として、各学級でのもくもく掃除の取組などを通して、継続した、粘り強い指導が必要であると考え。

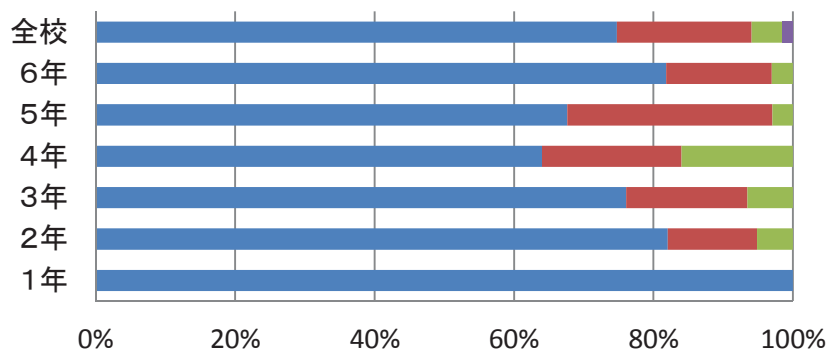
10. やさしい言葉づかいをする(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|
| ■ はい | 27 | 18 | 16 | 6 | 15 | 10 | 92 |
| ■ すこし はい | 3 | 18 | 21 | 14 | 14 | 20 | 90 |
| ■ すこし いいえ | 2 | 3 | 7 | 5 | 4 | 3 | 24 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 3 |

「はい」「すこしはい」が182名おり、1学期に比べて、あまり変化はないが、やさしい言葉づかいをする児童が増えてきているのがわかる。言葉については、各学級での取組もされているところもあるが、全職員が、共通理解のもと、児童の言語環境を見つめ、立ち止まらせたり、考えさせたりすることや、気づいたその時に、指導していていることの成果であると考え。しかし、27名の児童は「すこしいいえ」「いいえ」と答えている。教師だけでなく、児童の意識を高めるための取組を、全校で行っていく必要があると考え。また、言語環境は学校のみならず、家庭への働きかけも今後必要となってくる。

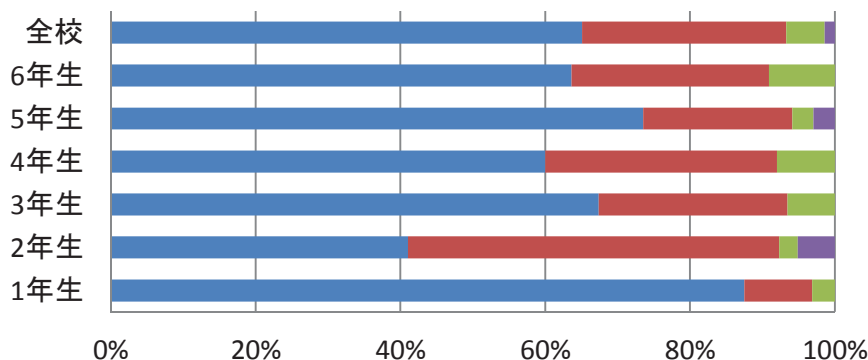
11. 決められた宿題をきちんとする(2学期)



| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|
| ■ はい | 32 | 32 | 35 | 16 | 23 | 27 | 151 |
| ■ すこし はい | 0 | 5 | 8 | 5 | 10 | 5 | 39 |
| ■ すこしいいえ | 0 | 2 | 3 | 4 | 1 | 1 | 9 |
| ■ いいえ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |

「はい」「すこしはい」が190名おり、多くの児童が宿題をきちんとすることができている。1学期同様、学校からは毎日宿題を出しており、出しっぱなしではなく、学校では、提出チェック、宿題の答えあわせ、やり直し等、意識化を図っている成果であると言える。「すこしいいえ」「いいえ」の児童は12名と少ないが、確実に実施させるためにも、本人への働きかけだけでなく、家庭との連携・協力を行いながら、取組を進めて行く必要があると考える。

12. 忘れ物なく、毎日の学習の準備をする(2学期)



| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 全校 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ■ はい | 28 | 16 | 31 | 15 | 25 | 21 | 136 |
| ■ すこしはい | 3 | 20 | 12 | 8 | 7 | 9 | 59 |
| ■ すこしいいえ | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 11 |
| ■ いいえ | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 |

「はい」「すこしはい」が190名おり、忘れ物がないように学習準備をすることができている児童は多い。1学期同様、各学級、週計画表の作成、連絡帳の活用など、学習準備への意識化をしっかりと図ってきた成果であると考えられる。しかし、「すこしいいえ」「いいえ」と答えた児童は14名おり、学習の準備(物構え)ができていないことがわかる。家庭での学習の準備の時間、仕方など、忘れないための手立てを児童に伝えたり、アイデアを考えさせたりして、実行させ、できたら価値付けをしっかりと行っていく必要があると考える。